

## 福井県防犯設備協会の紹介



NPO 法人福井県防犯設備協会 理事兼事務局長 竹原 慎一

「東尋坊・永平寺・朝倉遺跡」等の観光地や世界の三大恐竜博物館の一つ「恐竜博物館」と世界一の長さを誇る7万年分の「年稿博物館」、「幸福度日本一」の福井県は、日本海、若狭湾に面し、概ねJR北陸トンネルを境にして、北側の嶺北と(越前地方)、南側の嶺南(若狭地区および敦賀市)より編成されています。

福井県の人口は「約80万人」で、全国では43位と少なく、県の面積は「4,190km<sup>2</sup>」で、全国では34番目に広い面積を有している県です。越前の緑豊かな山々と、若狭の清らかな水の流れに代表されるように自然が美しい場所であり、それを代表する語に越山若水(えちざんじやくすい)と静かな地でした。

嶺南に13基の原発が集中し原発銀座とも称され、北陸自動車道・舞鶴若狭自動車道に加え、中部循環自動車道の全線開通、北陸新幹線の敦賀までの開通に向けて整備が進んで、陸の孤島とも言われた「北陸の地」でしたが、県内外の流入が容易な地域となりました。

### ■協会の概要

当協会は、平成17年5月に日本海の厳しい風雪に耐えぬいて寒中に咲く「福井県の花 水仙」をデザインしたものを会章とし、福井県・福井県警察本部のご支援を受けて設立し、福井県からの要請により平成20年6月1日に特定非営利活動法人(NPO法人)としました。現在は、法人会員13社、賛助会員1社、個人会員15名(総合防犯設備士7名)で構成されています。

当協会は、設立時から、福井県知事が主宰する「福井県安全安心まちづくり推進会議」の一員として、福井県・福井県警察本部が推進する地域防犯向上への一翼を担い、公営社団法人福井県防犯協会が主宰する「防犯モデルマンション・駐車場認定制度」、「防犯モデル一戸建て住宅認定制度」の審査などの地域安全のための支援、防犯に強い住環境の整備促進事業などを行い、安全で安心できるまちづくりの防犯活動を展開しています。

- |      |               |     |
|------|---------------|-----|
| 認定件数 | ・防犯モデルマンション   | 6棟  |
|      | ・防犯モデル駐車場     | 6ヶ所 |
|      | ・防犯モデル戸建て防犯住宅 | 6軒  |



### ■福井県の犯罪の発生状況

福井県の刑法犯認知件数は、最も多かった平成14年の13,884件から16年連続して減少して、平成30年は、ピーク時の4分の1以下と3,197件(ピーク時対比の23%)と減少しました。

平成30年は前年に比べ34件(1.1%)減少し、類似性の高い罪種を包括した包括罪種で見ると、

- 空き巣などの窃盗犯、詐欺などの知能犯
  - が減少しましたが、一方で、
    - 殺人などの凶悪犯、暴行傷害などの粗暴犯、強制わいせつなどの風俗犯
    - 器物損壊等などのその他の刑法犯
- は増加しました。

令和元年も認知件数は減少傾向にあり、17年連続の減少となる見込みです。(認知件数の確定は2月中旬ごろになるため確定値が出ません。)

### ■協会の活動状況の紹介

#### 1. 犯罪抑止対策

福井県・福井警察本部のご指導を受けながら、犯罪抑止対策に関して、

- 自転車、バイク、自動車の乗り物対策として、「施錠確認」と「wロック」
  - 車上ねらい対策として、車内に鞄などを置かない「物見え状態」の解消
  - 自動販売機の対策として、工具に強い「鍵対策」
  - 住宅侵入犯罪対策として、
    - ・常夜灯で街を明るくする「一戸一灯運動」
    - ・補助鍵を付けて「ワンドアツーロック」
  - オレオレ詐欺等の特殊詐欺対策として、「振り込む前にまず、相談を!」と金融機関などの「窓際対策」
  - 子どもと女性を守る対策として、
    - ・会員の会社、住宅を「子ども110番の家」に指定
    - ・小中学生の通学路を中心とした「街頭防犯カメラ」の設置推進
- を中心に防犯診断や防犯講演などにおいて、防犯啓発意識の向上などの活動を展開しています。

## 2.防犯カメラの設置及び運用・管理ガイドラインの制定

当県には市町も含めて、防犯カメラの設置に関する公的規定が無く、防犯カメラの性能や画角画質等は考量されずに闇雲に設置され、設置後のメンテナンスなどは軽視され、資産を投じた大切な防犯財産が有効に活用できない傾向にあります。

公益社団法人日本防犯設備協会が推奨されている「RBSS(優良防犯機器認定制度)」を取り入れた当協議会独自によるガイドラインの冊子を作成し、防犯カメラの設置に関する相談などに活用し貴重な財産を守る活動を展開しています。

「防犯カメラの設置及び運用・管理ガイドライン」を福井県の「防犯上の指針」等に規定を設けて頂ける様に呼びかけを行っています。

また、防犯カメラ設置場所について、かねて「電柱に取り付けたい」との交渉に当たり、平成29年1月、北陸電力のご理解を頂き可能となりました。



ガイドラインの冊子

## 3.防犯講話や相談業務

町内会や各種の団体などからの要請を頂き防犯講座を開催して、モデル鍵や補助鍵、防犯ガラスの打ち破り体験等による講習会(年に5回程度)を開催し、相談を受けて施設などの建物や戸建て住宅の防犯診断を実施し、必要に応じて、警備業や防犯施設業などへ照会により防犯問題の解決へと安全で安心なまちづくりに寄与しています。



モデル鍵などの展示

## 4.協会内での研修会の実施

会員の防犯知識の向上を図るために年に3回程度、研修会を実施しております。

防犯カメラ、防犯ガラス、防犯ドア・窓等の課題を設け、課題に沿った職種に就いている会員が講師として実施しています。

また、令和元年には、近畿中部ブロックの総合防犯設備士会の福井会議に参加し、ドローンの操作などの研修を実施し、最先端の知識、技術等の防犯知識の向上を図っています。

## 5.これまでの委託事業

### (1)防犯ドクター制度事業

平成17年度から平成22年度まで6年間、福井県警察本部からの委託事業として、防犯ドクター制度と称して、当協会に所属する防犯設備士が福井県警察本部長から「防犯ドクター」に任命され、戸建て住宅などの防犯診断(年に1,000軒)や戸建て住宅をモデルにした防犯実勢塾と称した出前講座(年に100回)の事業を実施するなど県民の住宅等に関する防犯対策の向上事業を展開しました。

「防犯ドクター」による防犯診断などの活動を皆さんに広く知って頂くために、防犯ドクター用の制服や装備品を備えて防犯診断活動を行ってきました。

また、防犯講話等で印象のある講話にと「防犯ドクター」に



喫茶店における出前講座

による寸劇団「防犯屋座」を結成し、子どもに扮した団員が防犯ドクターから不審者から声を掛けられた際の対策の指導を受ける寸劇を披露するなど実りある講演を心がけて、出前講座や文化祭などにおける講話の際に披露しました。

更なる犯罪の抑止対策として「防犯ドクター」による青色防犯パトロール隊を結成し、青色防犯パトロールを行いました。

平成18年から23年までの間の住宅を対象とする住宅侵入被害が激減しました。「防犯ドクター」による戸建て住宅の防犯診断や防犯実践塾等の活動により、多少なりとも激減に貢献できたと自負しております。

## (2)警察官の実地指導事業

平成26年度から平成28年度までの3年間、福井県警察本部からの委託事業として、「防犯設備士による警察官の実地指導」事業として、巡回連絡や街頭監視などの警察活動で市民と接する地域警察官を中心とした、戸建て住宅等をモデルにしての住宅診断指導(年に24回)を実施しました。

全ての地域警察官が戸建て住宅の建物の防犯診断が可能になるように伝授をさせて頂きました。



警察官に対する実践指導

## (3)講習会の開催事業

平成27年度から平成30年度までの4年間、福井県警察本部からの委託事業として、「企業に対する「犯罪に強い住環境」講習会開催」を事業として、平成24年度に福井県、福井県警察本部、そして、建築、建設関係の各協会等による「犯罪に強い住環境整備促進ネットワーク」の会員と新築住宅会社、リフォーム会社、鍵や窓などの住宅設備関連会社、警備業等に関する住宅関連企業(1回に約50人)を対象とした防犯講習会(年に2回)を開催しました。



「企業に対する「犯罪に強い住環境」講習会開催」を事業

## ■問題点と今後の課題

### 1.今後の組織体制と運営体制の整備

法人会員では、設立当初の熱が冷めたのか脱会され、新たな加入がなく、個人会員では、会員以外で取得している方が全く分からぬこともあります。声も掛けられない状態で、会員が会社をリタイヤされるとそのまま自然脱会等となり、新たな体制へ移行すらできない状況にあります。

運営体制に関しては、設立以来、福井県警察本部からの委託事業を協会の運営の主軸としてきました。

刑法犯認知件数の減少に伴い、公的な事業は期待薄となってきた現状を踏まえ、自立できる協会にしなければならないと考えておりますが、福井県・福井県警察本部のご指導が無くしては防犯活動が成り立たない現状にあります。今後も福井県・福井県警察本部からのご支援、ご指導を受けながら防犯活動を展開してまいります。

### 2.防犯意識の向上

福井県は、近隣、地域の繋がりによって、降雪等を助け合いながら生活してきていることからか、人びととの繋がりや信頼の原則が優先する県民性か、防犯意識に関しては希薄であると思われます。

新幹線や中部循環線が開通すれば、これまで以上に他府県からの人の移動が容易になり、犯罪の発生率も高まる可能性が危惧されます。これまで以上の防犯意識の向上が必要となります。防犯啓発活動を福井県・福井県警察本部、公益社団法人日本防犯設備協会、都道府県の地区協会等と連携をこれまで以上に密にして活動を展開していきたいと考えておりますので、今後とも皆様のご支援ご鞭撻を宜しくお願い申し上げます。